５０周年記念講演「高津のムラの姿と祭り」

蕨 由美

旧村高津は、はるか古代、都からこの地に下った藤原時平の息女高津姫の流離譚にいろどられた伝説が、寺院やお堂、産土の社に息づく地域です。

高津姫の守り本尊を祭るという観音堂、高津山観音寺、産土の高津比咩神社を中心に、ムラにはさまざまな講やツジキリなどの民俗行事が継承され、特に高津比咩神社が参加する「下総三山の七年祭り」は千葉県指定文化財に、「高津のハツカビシャ」は八千代市指定文化財になっています。

また「高津」という地名は、平安時代の『延喜式』に記されている「高津馬牧」の可能性があります。

1. 高津は中世城館跡が残るムラ

中世の城館跡の高津館跡は、ゴルフ練習場右側奥の竹林に二重堀などが残っていて全体像はわかっていませんが、「根小屋」という屋号の旧家があり、また近くに妙見社があることから、千葉一族の館であったと思われます。

2015 年に「ｅ地点」の発掘調査が行われた際には、後北条氏の城郭の特徴を持つ障子堀が発見され、堅固な守りの城館であった可能性があります。

2. 高津姫伝説

『高津山観世音　略縁起』によると、平安前期、菅原道真の祟りで亡くなった藤原時平の妻と高津姫は、東下りをして下総の久々田に至り、亡父を慕い一堂を建てその御霊を「御山明神」（三山の二宮神社）として祀りました。高津姫はさらに高津のこの地に堂を建て父から与えられた持仏の「十一面観世音菩薩」を安置しました。

正慶年中（1332～3 年）千葉之助後胤公が姫の名から村名を「高津」とし、お堂を改築、高津比咩神社に姫を祀り村の産土としました。その傍に創設されたのが、観音寺です。

天正（16 世紀）の頃、千葉之助後裔が霊社を修理し、「大悲閣」を再興、良田を寄付されました。

また、八千代市内には七年祭りに参加する「時平神社」が 4 社あり、貴種流離譚神話の地域的な広がりが興味深いです。

下総三山の七年祭り

三山の七年祭りは、七年に一回、近隣９神社の神輿が三山に集う祭りです。

藤原時平の子孫が久々田に流れつき、三山の二宮神社の神主となったという伝承により、９社は時平の一族と結びつけられ、二宮神社が父、時平神社は長男、高津比咩神社は娘とされています。

また一説には、馬加康胤の妻が二宮神社など 4 社に祈り、安産した故事によるとのことです

七年祭りの高津比咩神社

4. ムラの姿と民俗

高津の「ムラ内」は、「中村」「南」「西」「新田」の４つのニワ（庭）に分かれています。

11 月 1 日に七年祭に三山へ渡御した高津比咩神社の神輿は、翌日の「花流し」の祭礼で、高津のムラ内を隈なく巡ります。その範囲は、ツジ（辻）と言われる地点、すなわち「ツジキリ」の行われる地点内で、かつて旧高津村の集落はこのツジの範囲にありました。庚申塔などが神輿の折返しのポイントとなっている場合もあり、高津の「ムラ内」は花流しの神輿の渡御によって認識されてきたといえるでしょう。

集落の境には、両墓制の埋め墓や葬馬処、馬頭観音塔群があり、また不遇にも咳をして逃げそこなった男女を祀る「咳神様」の石塔もあります。

そしてこのムラ内の外の村域には田畑や山林などの「内野」「内山」が広がっていて、今はその多くが自衛隊演習地や住宅地、団地へと変貌しましたが、かつてはムラの生産と生活を支える重要な場所でもありました。